

MC[®] エムシーペインター[®] Painter[®] MCペインター[®] 塗装方法

注意

- MCペインター、イージーリペア、イージータッチは新車時純正色を基準に調色しておりますが、補修しようとする面の塗装焼けやくすみ、塗装の仕方・塗りかたによって色の違いがある場合があります。また、新車時でも車両メーカーの塗料ロットによって微妙な色の違いがあります。
- 仕上がり色合いの違い、作業の不備による仕上がりイメージの違い等の補償には応じられません。
- イージーリペアは通常の本格塗装とは違い、純正塗装と同一の色合いを再現することは不可能です。
- コインや木の枝による筋状の傷、飛び石によるへこみ傷、こすり傷等、傷の種類や状況により塗装の事前処理方法が異なります。状況に合わせて必要な作業を行なってください。
- 商品に表示されている色シール、適合表色は印刷のため実際の塗料色とは異なります。色は必ず純正色名か純正カラーコードを元を選んでください。
- 純正色名、純正カラーコードがわからない場合は、車両メーカーのカatalog、パーツリスト等でお調べください。また、ツートンカラーやフレームカラー、ホイールカラー等の場合はパーツリストではわからない場合がありますので車両メーカーへお問い合わせください。
- MCペインター（耐ガソリンペイントを除く）、イージーリペア、イージータッチ、イージーリペア用クリアーに耐ガソリン性はなりません。
- 塗装作業に入る前に商品に付属している取扱説明書、使用方法、注意文を必ずお読みいただき内容を熟知したうえで塗装作業を行なってください。

ペイント前に知っておきたいこと

POINT 1. よく振る

缶内には攪拌用のボールが入っています。使用前には全体を混ぜ合わせるように、何度も振って(50秒以上)からスプレーしてください。**パールやメタリックは塗料の成分が特に沈殿しやすいため、使用中も時々振る必要があります。**

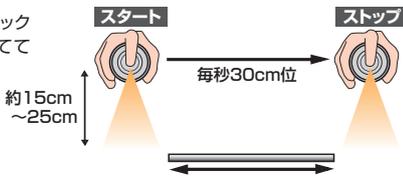
※吹き始めは塗料が一定に出にくいいため、新聞等にひと吹きしてからペイントを始めます。
※キャップはまっすぐ外してください。ノズルが折れる恐れがあります。



POINT 2. 手の動かしかた

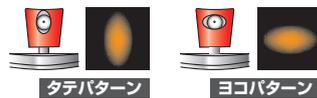
塗装面とノズルは約15cm~25cm離して、平行に同方向に移動させます。手を動かすスピードは30cm/秒位が目安。塗装面より少し手前から吹き始め塗装面から少し外れた所で吹き終わります。

塗料の成分がつまりやすいメタリックやパール系塗料は、必ず缶を立てて吹くようにしてください。



POINT 3. ノズルの選択

塗装箇所の大きさや形状に合わせて、ノズルの噴射口を回してタテパターン、ヨコパターンを選びます。



POINT 4. 薄めに塗る

一気に厚塗りするとたれが生じてしまいます。3回~5回ぐらいに分けて薄めに塗り重ねていきます。1回塗ったら10分~20分位乾燥させ、2回目に塗るというように、色合い等を確認しながらスプレーしてください。

POINT 5. 1缶のペイント面積

MCペインター1缶300mlで塗れる面積は、2回塗りの場合で約0.6~1.0m²になります。

※塗り面積はあくまでも目安です。塗料の種類、塗装時の条件や塗装物の形状等で異なります。



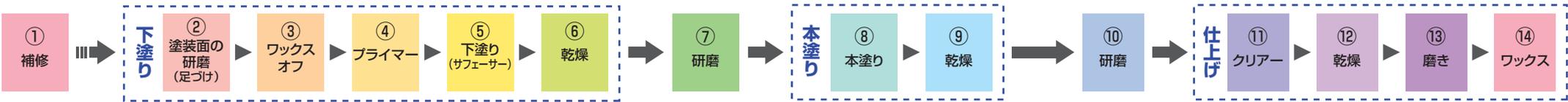
POINT 6. 保管方法

使用後は缶を逆さまにして約2秒空吹きしてから、ノズルの噴射口を良くふいて保管します。

※ウレタン系の耐ガソリンペイントは缶内で硬化してしまうため再使用できません。



ペイント作業の全体の流れ



① 補修

- サビがある場合はサビ取り剤や耐水サンドペーパーなどでサビを取り除きます。
- 傷やへこみなど補修の必要がある場合はパテ埋め等の作業を行ないます。パテ埋め作業の後は十分に乾燥させてください。

② 塗装面の研磨(足づけ)

- 塗装の密着性を高めるため#800程度の耐水サンドペーパーで塗装面を磨く足づけ作業を行ないます。
※水を流しながら行なう水研ぎの方がサンドペーパーを目詰まりさせずに楽に作業ができます。
- 特にひどいダメージ(サビ等の腐食)が無い場合は塗装面の剥離は必要ありません。
- 細かい傷がある場合はこの作業で消しておきます。

③ ワックスオフ(脱脂・洗浄)

- 脱脂・洗浄用のワックスオフ(68654)を使用して塗装面の汚れ等を落とし、キムタオル(33800)やきれいな布でふき取ります。

④ プライマー

- PP材(ポリプロピレン)は塗装がはがれやすいため、PP材用プライマー(68653)を薄く塗ります。
※サッと薄く噴き付けて乾燥させます。
- 完全に塗装をはがしたタンク等には防錆、密着性を高めるためプライマーサフェーサー(68662)を塗り乾燥させます。

⑤ 下塗り(サフェーサー)

- 下塗りが指定されているMCペインターはサフェーサーシルバー(68658)または指定色のスプレーを塗ります。
※このサフェーサーは本塗りのペイントの発色を良くするための塗装です。MCペインターの下塗りで指定されている場合は必ず下塗り塗装が必要です。

⑥ 乾燥

- 塗膜内部も十分に乾燥させるため、気温や塗り重ね回数にもよりますが数日間(3度塗り、気温20℃、湿度65%で72時間以上)乾燥させます。
※表面が乾燥した状態でも次作業に移れますが、この時点でしっかりと乾燥させることによって失敗(乾燥不良、縮み)を防ぐことができます。

⑦ 研磨

※下塗りの塗装面が平滑な場合は、研磨は必要ありません。

- 下塗りが完全乾燥後、下塗り塗装面がざらざらしていたら#1000程度の耐水サンドペーパーで水研ぎします。
※下地が出てしまった場合は再度⑤下塗り作業へ戻ります。
- 研磨後、塗装面に細かな傷やへこみが残っている場合は、アクリルレッドパテ(72649)を使用して傷やへこみを無くします。再度⑤下塗り作業に戻ります。
- 手間がかかりますがこの時点で塗装面をきれいに仕上げないと塗装の仕上がりに差がでます。
- 研磨後、汚れ、油分が付着した場合はワックスオフ(68654)で取り除きます。

⑧ 本塗り

(ソリッドカラー)

- 仕上がり具合、色合いをみながら距離・スピード等を一定にしむらなく塗装します。
- (1色仕上げのメタリック・パールカラー)**
 - 一度に厚塗りをするとむらがやすいので注意して塗装します。特にシルバーメタリック系は塗装のざらつきによる黒ずみがやすいので、ぼかし剤(68656)の併用をおすすめします。

(2色以上塗り重ねるパール・キャンディー・カラークリアー)

- 塗り重ね回数が増えるごとに色合いが濃くなりますので、なるべく薄く噴き付けて色合いを整えながら慎重に塗装します。色の濃淡がでてしまうと修正は困難です。
- 部分補修塗装はできませんので部品ごとに全面塗装してください。

⑨ 乾燥

- 塗膜内部も十分に乾燥させるため、気温や塗り重ね回数にもよりますが10日間以上(3度塗り、気温20℃、湿度65%)乾燥させます。2色以上塗り重ねた場合はさらに乾燥時間をとっていただくことをおすすめします。
しっかりと乾燥させることによって失敗(乾燥不良、縮み)を防ぐことができます。

⑩ 研磨

※本塗りの塗装面が平滑な場合は、研磨は必要ありません。

(ソリッドカラー)

- 塗装した面がざらざらになった時は#1200以上の耐水サンドペーパーで水研ぎし塗装面を平滑にします。研磨後、汚れ、油分が付着した場合はワックスオフ(68654)で取り除きます。

(1色仕上げのメタリック・パールカラー)

- メタリック・パール調の違いができる可能性がありますので研磨はしません。

(2色以上塗り重ねるパール・キャンディー・カラークリアー)

- 色の濃淡がでてしまうので研磨はしません。

Q&A よくあるお問い合わせ

Q ツートンカラーの色はわかりますか？

A ツートンカラーやステッカー色などの場合は純正色名がパーツリストに明記されておらず当社ではわかりかねます。車両メーカーへお問い合わせいただき純正色名、純正カラーコードをお調べください。

Q この車両の近似色はありますか？

A 申し訳ございませんが当社ではラインアップされている色以外の車両色データは持っておりません。MCペインター色見本帳を参考にさせていただき近似色をお選びください。

Q 仕上げのクリアーは耐ガソリンペイントの方がいいですか？

A アクリル系クリアーでもクリアー塗装は可能ですが、万が一ガソリンやパーツクリーナーなどが塗装面にかかってしまった場合、耐油(ガソリン)性がありませんので塗装がとけてしまいます。アクリル系クリアーに比べ塗膜が厚く、耐候性、耐油(ガソリン)性に優れているのでオートバイの外装塗装には耐ガソリンペイント クリアーをおすすめします。さらに深みのある光沢が得られ発色性、耐久性とも抜群です。

Q 耐ガソリンペイント クリアーを塗ったけどツヤが足りません。クリアーを再度塗ることはできますか？

A クリアー塗装開始後30分以上経っている場合は、縮みが発生する可能性があるためクリアーを再度塗ることはできません。耐ガソリンペイント クリアーを塗装する場合はツヤ不足等起きないように十分に注意してください。

Q 塗装していたら塗装面が縮み(シワ)になってしまった。

A ●2色以上の塗り重ねで1色毎に十分乾燥させずに作業した場合に縮みが発生します。特に本塗りの塗料が十分に乾燥していない状態で耐ガソリンペイントクリアーを塗装すると発生する可能性が高くなります。また耐ガソリンペイントの塗装面に再塗装した場合も縮みの原因になります。- ABS樹脂に旧塗装膜があり再塗装する場合、塗装を塗り重ねていくと縮みが発生する場合があります。
※このような縮みが発生した場合は、非常に高度な技術を要しますので専門家に塗装をご依頼ください。
- 縮みには対処方法がありませんので塗料を落とし再度塗装をやり直す必要があります。耐ガソリンペイントの取り扱い説明書をよく読んで内容を熟知したうえでご使用ください。

Q 部分ペイントした部分だけ色が違う。

A MCペインター、イージータッチは新車時の純正色に対応しているため、色がヤケたバイクに部分ペイントした場合は、色が合いません。そんな時には新塗装と旧塗装の境目を目立たなくさせるため周辺をボカスようにスプレーします。さらに上塗り直後に、その範囲より広めに薄くボカシ剤をスプレーすることで、境目付近の塗料のツブが溶けて均一になり、ツヤ差や色差が目立たなくなります。
バイクの場合は自動車と違いパーツの取り外しが簡単にできるので、部分ペイントよりパーツペイントをおすすめします。また2色以上を塗り重ねるカラーは、部分ペイントはできません。

Q キャンディ系の色を塗装したら色が濃い。

A キャンディ系色の上塗り色(カラークリアー)は塗り重ねると色が段々と濃くなります。基準になる部品と照らしあわせながら慎重に塗装を行なってください。

Q ペイントが乾かない。

A MCペインター、イージータッチで一度に厚塗りしたり、短時間で塗り重ねをした場合、溶剤が抜けなくなり塗装面が乾かない場合があります。数日置いて指で押してもへこまなければOKですが、硬化していない場合は塗装をはがして再塗装するか方法がありません。加熱してもアクリル樹脂が溶けるだけで硬化はしません。
※白、黄、緑等の逃げやすい色は厚塗りしてしまう傾向があります。注意してください。

⑪ クリアー

- 仕上げにクリアーの指定があるMCペインターはクリアー塗装を行ないます。**(捨てるクリアー)**
- マスキングを行ない複数の色を塗り重ね塗装面に段差ができた場合は、仕上げクリアーの前に段差をカバーするためのアクリル系クリアー(68663)を塗装します。塗装面に段差が無い場合は必要ありません。
※アクリル系クリアーを塗装したあとは十分に乾燥(3度塗り、気温20℃、湿度65%で72時間以上)させ、段差が目立たなくなるように#1200以上の耐水サンドペーパーで水研ぎします。研磨後、汚れ、油分が付着した場合はワックスオフ(68654)で取り除きます。

(仕上げクリアー)

- 最終的な仕上げクリアーは、塗膜が厚く、耐候性、耐ガソリン性に優れたウレタン系の耐ガソリンペイント(72709)を使用します。
※耐ガソリンペイントは通常の缶スプレーと違い、2液性の缶スプレーで特殊な性能を持っています。取り扱い・使用上、特に注意する点がありますので製品の説明書をよく読んで内容を熟知したうえでご使用ください。

⑫ 乾燥

- クリアー塗装後、数日間(3度塗り、気温20℃、湿度65%で72時間以上)乾燥させます。

⑬ 磨き

- クリアー塗装が完全に硬化(乾燥)したことを確認したら磨きを行ないます。表面がざらざらしていたら#1500以上の耐水サンドペーパーで水研ぎし塗装面を平滑にします。その後、コンパウンドで光沢がでるまで磨き上げます。
※磨り過ぎや磨き過ぎで下地がでないようにご注意ください。
※コンパウンドは細目→極細目→鏡面仕上げで作業します。

⑭ ワックス

- 仕上げにワックスをかけて作業は終了です。